



一般社団法人
宗教2世支援センター
陽だまり

当事者視点から見た 宗教2世問題

(一社) 宗教2世支援センター陽だまり
ちざわりん



自己紹介 (一社) 宗教2世支援センター陽だまり ちざわりん

- ▶ 5歳の時に、母親がエホバの証人に入信。15歳頃から熱心な信者になる。
- ▶ 20歳の時に教団の活動から離れる。その後約2年ほどアルコール・ギャンブル依存状態に。
- ▶ あることがキッカケで「真人間になりたい」と決意。
22歳で「介護職」に。
- ▶ 現在は対人援助職（主任介護支援専門員・社会福祉士・公認心理師）



自己紹介



「帰ったら鞭ね！」母からクリスマスを禁止された“宗教2世”が、心の支援の専門家になるまで「神様」のいる家で育ちました～宗教2世な私たち～<https://bunshun.jp/articles/-/59716>



自己紹介



参考:

- ・「宗教2世」荻上チキ編者、太田出版（2022年）、96～97頁。
- ・「信仰から解放されない子どもたち—#宗教2世に信教の自由を」横道誠編・著 明石出版（2023年）、103～122頁
- ・季刊〔ビィ〕Be!149号、ASK(アルコール薬物問題全国市民協会)（2022年）、47～49頁

宗教2世問題
について考える



自己紹介

- ▶ 2019年12月からオンラインで宗教2世の自助グループ支援（ピアサポート）を始める。
- ▶ 2021年頃からメディアに取り上げられ、2022年7月以降、その頻度が急激に増えた。



宗教2世が語る子どもへの強制 自民勉強会がヒアリング

藤井 孝良（教育新聞記者）

2022年9月28日

安倍晋三首相が銃撃され死亡した事件を巡り、母親が旧統一教会に多額の献金をした結果、生活に困窮するなどしていたことが犯人の動機として挙げられ、信仰に熱心な家庭で育った子ども（宗教2世）の問題がクローズアップされる中、自民党の若手議員らによる「Children Firstのこども行政のあり方勉強会」は9月28日、都内で会合を開き、宗教2世の当事者からヒアリングを行った。当事者は子ども時代にさまざまな制約や宗教活動の強制があったと説明し、子どもの権利に基づいた支援の必要性を訴えた。



宗教2世の問題を語る当事者ら（左から三森さん、ちざわり

（上）NHK「私たちは“宗教2世” 見過ごされてきた苦悩」2021年5月28日（関西ローカル）、同年6月17日（全国放映）

（右）2022年9月28日 教育新聞「children Firstのこども行政のあり方勉強会」の記事

©2023 nisei-hidamari

宗教2世問題
について考える



自己紹介

(一社) 宗教2世支援センター陽だまり 自助支援グループ

ちざわりんさん (仮名)

 https://twitter.com/ac_ccp

「陽だまり」
クラウドファンディングサイトより
<https://readyfor.jp/projects/niseihidamari/announcements/269968>

「陽だまり」代表の秋本氏の行われている宗教2世支援活動に出会ったのは、教団から離れて4年ほど経った1998年頃で、離れた直後から宗教時代のより戻しによって、アルコール依存、ギャンブル依存になっていました。この1年前に、同じ宗教2世であった弟を自死で亡くしており、精神的にも最悪の時期でした。

そんな時期に、秋本氏主催の宗教2世用の掲示板でのさまざまな方との交流、そのネットワークで知り合った方々と直接会える「オフ会」を通じて、孤立・孤独感がやわらげられました。また、ロールモデルとなる先輩2世の方々の言動に勇気づけられ、「自分もこの世界で生きていける」という自信を持てるようになり、一念発起して資格を取得。現在、公認心理師・社会福祉士として、自分の本当にやりたかった社会に役立つ職業で働いております。

振り返ると、あの支援活動との出会いがなかったら、現在の自分があったのかと改めて思います。

あれから四半世紀以上経過しても、なお宗教2世の支援活動を継続し、なおかつ全く新しい、宗教2世支援の非営利法人まで立ち上げられた秋本氏に心から敬意を表します。私も宗教2世当事者として、そしてこの「陽だまり」のメンバーの一人として、微力ながら「あのときの自分」と同じ苦しみを抱えている方々への支援をさせていただきたいと思っています。



本日のテーマ

- ▶ 当事者としての私のスタンス
- ▶ 「宗教2世」という言葉をめぐる議論
- ▶ 「宗教2世問題」とは
- ▶ **当事者視点で見る宗教2世問題**
- ▶ まとめ：当事者にとって必要なもの





当事者としての私のスタンス

- ▶ 宗教2世当事者として、いままでサバイブしてきた
「経験専門家」
- ▶ 各教団や信者の方々の「信教の自由」を侵す意図はない。
- ▶ 私の発信により、宗教2世当事者の心情を理解して頂いた上で、対立や分断ではなく
「対話のキッカケ」になってくれれば、と願っている。



「宗教2世」という言葉をめぐる議論

▶ 「宗教2世」

「宗教」という言葉の持つ意味の範囲の広さから違和感を感じる。

伝統宗教の方々からの強い抵抗感。

▶ 「カルト2世」

当事者にとって「カルト」という言葉に対して抵抗感が強く、差別的な扱いを恐れて声が上げづらくなる。



どうして「**宗教2世**」という概念が必要になったか。

- ▶ インターネットが普及し始めた1990年代後半以降、ある宗教に強い信仰心をもった親のもとで育った人達の中に、教理に基づく親の価値観を受け入れることに抵抗感を感じ、しだいに精神的に追い込まれた人たちが、みずからを「**宗教2世**」（もしくは「**教団名+2世**」）と名乗り、インターネット媒体を通じて、自分の体験談やその後の人生の中での生きづらさ、メンタルヘルスへの悪影響を発信する動きが見られるようになった。



宗教2世界隈の活性化とマスメディアからの注目





「陽だまり」における「宗教2世」 の定義

- ▶ 「一般社団法人 宗教2世支援センター陽だまり 定款」
定款第3条では

「宗教2世」とは

「宗教2世もしくは3世、4世など親の宗教から
社会的許容範囲を超えた影響を受けたもの」

と定義している。



「宗教2世問題」とは

- ▶ 「宗教2世」の生きづらさや苦悩の代表的な例

上越教育大学 塚田穂高教授（宗教社会学）

「『宗教2世』問題の沸騰は何を問いかけるか」
『現代用語の基礎知識2022』自由国民社
(2021年)、278頁。



「宗教2世問題」とは

▶ 『宗教2世』の生きづらさや苦悩の代表的な例①

①幼少期から儀礼や布教、集会参加などを強制された。

②自由な交遊や恋愛を禁じられ、窮屈な学校生活を送った。

③親や教えに背くとムチ（ベルトやゴムホース等）でたたかれた。



「宗教2世問題」とは

▶ 『宗教2世』の生きづらさや苦悩の代表的な例②

④進学の見切りや、教団系の学校進学を強制された。

⑤信者同士の結婚を強いられた。

⑥職業選択の自由がなかった。

⑦教えから離れようとしたら、家族や周囲から
「地獄に落ちる」と脅された



「宗教2世問題」とは

- ▶ 「社会調査支援機構チキラボ」2022年9月9日～9月19日の間にウェブ上で、宗教2世に関するアンケート調査を行った結果から。
- ▶ アンケートに答えた1131名のうち、創価学会が428名、エホバの証人が168名、旧統一教会が47名、その他が335名。

参考文献：

- ・『宗教2世』当事者1,131人への実態調査－「『宗教2世』当事者の実態調査報告書」
（「一般社団法人 社会調査支援機構チキラボ 調査・研究成果」
<https://www.sra-chiki-lab.com/reaserch-result/> からダウンロード可能）
- ・「宗教2世」荻上チキ編者、太田出版（2022年）、282～303頁。

©2023 nisei-hidamari

宗教2世問題
について考える



「宗教2世問題」とは

▶ 「チキラボ1131人実態把握調査レポート」より
→ 実際の当事者の声①

- ・ そもそも脱会させてくれない、
脱会の方法がわからない
- ・ 執拗な再勧誘、引き戻し
- ・ プライバシーが守られない。執拗につきまとわれる
- ・ 社会適応の難しさ
- ・ アイデンティティの喪失
- ・ 後ろめたさ、罪悪感
- ・ メンタルヘルスの悪化



「宗教2世問題」とは

▶ 「チキラボ1131人実態把握調査レポート」より
→ 実際の当事者の声②

- ・ 家族関係の悪化
- ・ 家族の精神の不安定化
- ・ 家族や信者からの暴言・暴力
- ・ 孤独や孤立、居場所の喪失
- ・ 経済的な困難
- ・ 社会からの偏見、ハンディキャップ
- ・ 価値観や世界観の「残響」



「宗教2世問題」とは

▶ 「チキラボ1131人実態把握調査レポート」より
→ 実際の当事者の声③

- ・ 教義に反する行動への忌避感や罪悪感
- ・ 恋愛や結婚への後ろめたさ、性嫌悪など
- ・ 女性や性的マイノリティへの差別感情
- ・ 政治的思想における名残
- ・ 「いい子」を演じようとしてしまう
- ・ 善悪二元論的な発想、選民意識
- ・ 脱会した宗教と関連があるものや、宗教的儀礼全般への抵抗感



当事者視点で見る宗教2世問題

▶ 「生きづらさ」のグラデーションの広さと複雑さ

- ・ 同じ教団出身同士でも・・・
- ・ 違う教団出身同士でも・・・

「宗教2世当事者」と言っても一括りに語れない複雑さがある。

当事者視点で見る宗教2世問題

- ▶ 宗教2世当事者が持つ、深い「孤独・孤立感」
 - ・ 一般の人には「理解や想像がつきにくい宗教的な教育や体験」をしてきたので、世間的の理解が得にくい。
(終末論、選民思想、善悪二元論等)
 - ・ 一般の人に相談した際に『1』言って『-3』ぐらいで返された経験。



当事者視点で見る宗教2世問題

- ▶ ハッキリとした『答え』をもってなく、常にモヤモヤしていたり葛藤が続いている。
 - ・ 過去の自分に対しての折り合い
 - ・ 複雑に絡み合う親子関係
 - ・ 一般的な家族の問題としては説明しきれない特殊で個別性の高い経験



当事者視点で見る宗教2世問題

- ▶ 自分が思っているよりも『後遺症』が深いのかも。
 - ・ まだまだ回復の途中？
 - ・ 2020年1月に起きたフラッシュバック

まとめ：当事者にとって必要なもの

- ▶ 宗教2世当事者の「苦しみ」を理解してくれる、相談窓口や自助グループの必要性①
 - ・ だれからも否定されずに安心安全に自分の体験を語れる場所。
 - ・ 当事者同士の対話で『1』言って『10』理解してもらえた体験。
 - オフ会、オンライン自助会の経験が回復や元気づけられるキッカケになった。

まとめ：当事者にとって必要なもの

- ▶ 宗教2世当事者の「苦しみ」を理解してくれる、相談窓口や自助グループの必要性②
 - ・ 「共通言語」が通じる当事者同士が繋がれる場
 - ・ 宗教2世当事者が抱えている葛藤を分かち合える場が必要。

まとめ：当事者にとって必要なもの

- ▶ 宗教2世当事者の「苦しみ」を理解してくれる、相談窓口や自助グループの必要性③

・ 違う教団の2世同士でも・・・

「集会や布教活動が辛かった」「世間的にマイノリティで差別的な扱いを受けた」「教団を離れた後の苦労」「親子問題」など分かり合えて励まし合える要素も多い。



終わりに

漫画家 菊池真理子氏

「宗教2世が『この人になら打ち明けたい』と思えるような人でいてほしい。特別なことをしなくても、ただ、優しく生きて。それが宗教2世に限らず、すべてのマイノリティーの人の力になると思うのです」

毎日新聞2022/9/6 東京夕刊記事

「あした元気になあれ『宗教2世』の声に耳を」より



一般社団法人
宗教2世支援センター
陽だまり

ご清聴ありがとうございました。